



市民の目線で 狛江市政をお届け! こまえをこなげる

こまえなNEWS

VOL. **94**
2026年9月発行
発行: 狛江で分かりやすい政治を伝える・維新の会
狛江市岩戸北3-18-8-701

シリーズ **これからの狛江を、考える。01**

これからの狛江に必要なテーマをひとつずつ、掘り下げていきます。
第一回は、狛江市議会の議会報「GG」を取り上げます。

KOMAE→

令和3(2021)年、こまえ市議会だよりは大きく変わりました。

読まれなければ、意味がない。

GG-1.0

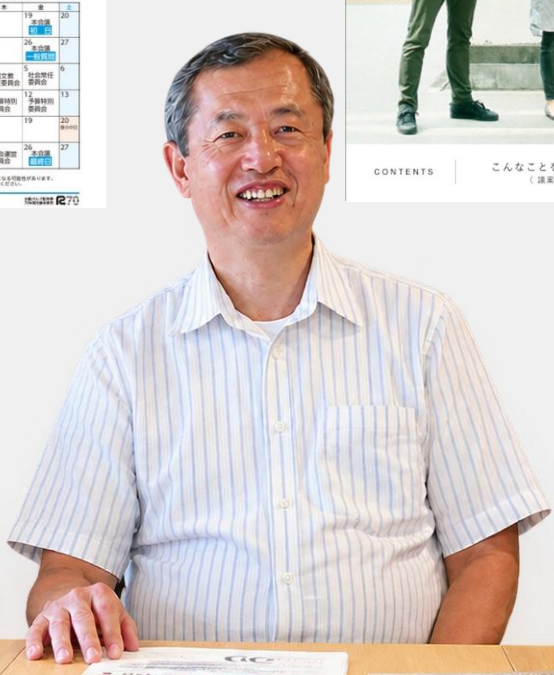
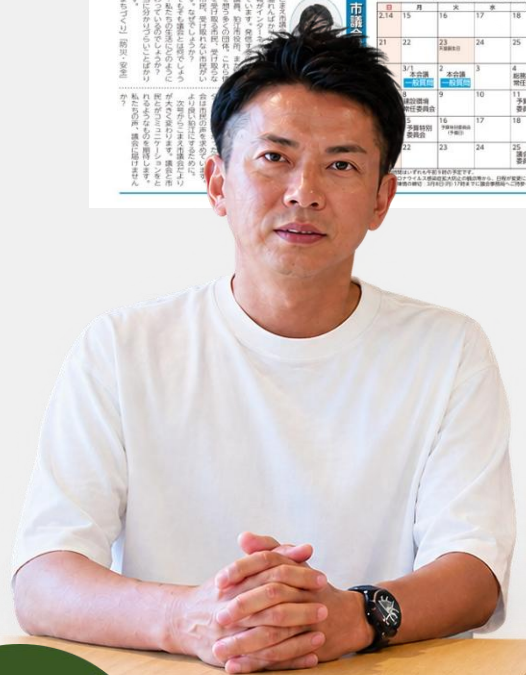
全国の自治体議会が注目する「GG(ギカイガイド)」はここから始まった。

— GG 誕生前夜 —

BEFORE 220号以前の「こまえ市議会だより」



AFTER 221号から「GG(ギカイガイド)」へ



5年ぶりに当時、
こまえ市議会だよりの
リニューアルに関わった
3人が振り返る

栗山晃靖さん
ハーモニクス株式会社
クリエイティブディレクター

小川啓二さん
令和3年当時の議会事務局長

三宅まこと
完全無所属の狛江市議会議員

粕江市議会報「GG(ギカイガイド)」誕生ヒストリー

市民に伝わる議会報を目指して、3人で、そして議会全体で作り上げました。

① 「読まれなければ、意味がない」という問題意識を共有し、理解してもらうまで。

(三宅)
本日はGGがリニューアルする前のお話をお聞かせて参ります。
私は小川さんに議会報は市民に手に取っていただき、読まれ
なければ、意味がないという問題意識を共有しましたね。

(小川)
もちろん、私もそう思っていました。市民の皆さんに見られて
いないものを作っても、それは資源の無駄だと。ただし、議会
事務局だけがそう思っている、議会は動きません。

そこで、市民モニター10人の仕組みを作りました。実際に
こまえ市議会だよりを見ていただき、生の声をお聴き
したところ、誰も見ていないと。こうした生の声
を議員の皆様へ伝える取り組みをしました。



完全無所属の
粕江市議会議員 **三宅まこと**

わたしが変えたかったのは、見た目だけで
なく、市民と議会の距離だったんです。

② 他自治体を視察して、議会全体の機運醸成を目指していく動きをしました。

(三宅)
小川さんとわたしが問題意識を共有できたとしても、議会報を
変えられない。そこで、他自治体の視察を考えられましたね。

(小川)
議員の皆さんに説得する材料として他の自治体を見ていただ
くことが早いと考えました。多摩26市を調べてみるとあきる
野市議会がすばらしい議会報を発行していることを知りました。
そこで驚いたのは市議会議員自身が熱い思いで作っている。
逆に粕江では議員が(制作に)関わっていない。
(視察を通して)議員が受け身でなく能動的
になって、自分たちの思いをのせていかな
くてはいけない、意識が変わったと思います。



議会事務局長(当時) **小川啓二さん**

議会報の主人公はあくまでも議員。あきる
野市議会議員の熱い思いが伝わりました。

③ 議会運営委員会で方向性を合意していくために小委員会を設置へ。

(三宅)
議会運営委員会(以下議運)で合意するため、議会だより小委
員会を作る動きがありました。趣旨をお聞かせください。

(小川)
市民の皆さんにわかりづらいのですが、議運は議員の会派議
席によって構成メンバーが決まりますが、多数決ではなく全会
一致でないと(物事は)進まないんです。そこで、まずは、議員
の皆さんに「こまえ市議会だよりは見られていない」という問
題点を認識していただく。次に、新しくできた小委員会のメン
バーで合意点を見いだしてから議運にあげる。
最後に議会のルールに則って議運で承認して
いただく。そうした戦略を考えました。



議会事務局長(当時) **小川啓二さん**

GGを変えるために、正式な議会の手続き
を踏んで、合意してもらうよう尽力しました。

④ 小委員会へ具体的な提案をするためクリエイターを小川さんに引き合わせ。

(三宅)
次にどう変えていくかという段階で、小川さんから「いいク
リエイターがいなか」という相談を受け、栗山さんを紹介しました。

(小川)
(私がデザインをお願いする上で)こだわっていたのは粕江に
縁があること、地元根付いていることが必須だと思っていま
した。私もいろんな人と会っていますので、プロだとしても中
途半端なモノを作ってもらうのは勘弁してくれと。三宅さんか
ら「栗山さんは和泉多摩川商店街のイベントを運営している」
「(三宅が企画した)粕江市内農産物直売所のデ
ザインもされている」ということもお聞きしてい
ましたので、是非お願いしたいなと思いました。



完全無所属の
粕江市議会議員 **三宅まこと**

小川さん談、「万人に受けるものは役所の発
想ではなくプロに任せる。」コレ大事です。

⑤ 「一方通行から相互通行へ。まずは手に取ってもらうこと」というコンセプト。

(三宅)
議会にあまり興味ない人にどうやって議会報を手にとってもら
うようにするか、どういう点を大切にされたのでしょうか？

(栗山)
今までのこまえ市議会だよりは、自分の言いたいことを勝手に
出して市民に配っているだけだったんですよ。誰に読んで欲し
いのかというターゲットを想定していない。だからこれは読者
に向けた議会からラブレターであるべきと考えていました。
そのために何をするかというと、コンセプトとター
ゲットを明確にすること。ネーミングの提案もしま
した。こちらからの提案でなく、議員の皆さんと
一緒に盛り上がったのが良かったですね。



クリエイティブ
ディレクター **栗山晃靖さん**

議会報は、ちゃんと顔を見て、これが僕のラブ
レターなんだよ、という気持ちを大切に。

⑥ 小委員会でのプレゼンテーションを重ね、合意形成を経て「GG」に。

(三宅)
最終的に小委員会メンバーに理解して納得してもらうために、
クリエイティブディレクターとして何に腐心しましたか？

(栗山)
小川さんの話をお聞きし、意思決定までの下地を作ってくだ
さっていたんで、(議員が)意識を変えようという段階まで来
ていたということを知りました。種まきから芽が出る直前まで
やっていたさだったんで、僕がそのボタンを受け取り、ちゃ
んと花を咲かせることができました。
腐心したのは「一方通行から相互方向へ。まずは手に
取ってもらうこと。」というコンセプトとステイトメント
をずらさないこと。これを一番大切にしました。



クリエイティブ
ディレクター **栗山晃靖さん**

市議会議員と市民との距離を近づけること。
これが一番大切だと思い、企画を考えました。

全国の自治体議会がGGの視察に 来ています。

GGの編集・デザインやリニューアルの取り組みについて、これまでに
16の自治体議会がGGの視察に訪れています。(2026年7月現在)

2022年
・10月 福井県 坂井市議会
2024年
・1月 長野県 塩尻市議会
・1月 東京都 豊島区議会
・4月 東京都 府中市議会
・5月 福岡県 春日市議会
・5月 千葉県 柏市議会
・7月 愛知県 犬山市議会
・7月 愛知県 小牧市議会

2025年
・1月 宮城県 仙台市議会
・2月 山梨県 甲斐市議会
・4月 東京都 品川区議会
・7月 香川県 三豊市議会
・8月 長野県 長野市議会
・10月 山口県 岩国市議会
2026年
・1月 三重県 松坂市議会
・4月 東京都 西東京市議会

今号のインタビュー全編を収録したYouTube動画
GG-1.0 GG誕生前夜 はコチラからご覧ください。



伝えることまでが、政治の仕事。

小川さんからの要望

「現状に満足することなく、もっと幅広い範囲で
市民の声を聴いて改善の努力をしてください」

栗山さんからの要望

「GGは原点に戻って、議会のテーマに紐付いた
リアリティある情報を特集して欲しい」

三宅まことの決意

「せっかく合意できたコンセプトをずらさない、且つ
ターゲットを変えないことに留意します」

